



亀中だより

No.35 令和7年2月7日 文責:岡田



For The Students!

亀山中学校では、1月13日を「いのちの日」と設定し、毎年この日をきっかけとして一人ひとりが命の大切さを考える日としています。これは、今から16年前の2009年1月13日に当時本校1年生の生徒が交通事故で、さらに同年6月23日には当時本校2年生の生徒が鈴鹿川での水難事故で相次いで亡くなるというふたつの悲しい事故がきっかけです。一年間の中で大切な仲間を二人も失うという痛ましい経験をした亀山中学校は、二人のことを忘れることなく、命の大切さを語り継ぐために、最初の事故が起こった1月13日を亀山中学校「いのちの日」として大切に過ごしてきました。

この出来事は、今の生徒のみなさんのほとんどが生まれる前の出来事です。生徒のみなさんが生きてきたのと同じか、それ以上の時間、亀山中学校ではこのことを大切に受け継いできました。今年1月20日に「いのちの日」講演会を行いました。今回は(公財)三重県国際交流財団 MIEF の上原ジャンカルロさんを講師にお迎えして、「外国人住民の人権」をテーマにご講演をいただき、誰もが住みやすい社会を考えることから一人ひとりの命の大切さを学ぶ機会としました。

「いのちの日」講演 上原ジャンカルロさん

「外国人住民の人権～誰もが住みやすい社会を目指して～」

上原ジャンカルロさんは、日系三世のペルー人で、10歳で来日し3年間を長野県で暮らしたそうです。その後13歳で一時帰国し、母国で大学を卒業し、社会人となって23歳の時に再来日、その後再び日本で暮らすこととなったそうです。

今回上原さんからは、亀山市に暮らす外国人のこと、海外の教育制度や教育文化などを教えていただき、「人権問題をなくすために私たちにできること」を考えさせてもらいました。

自分と違う価値観・文化を持った人がいることを知り、自分の価値観を押し付けることなく、相手の文化を尊重することの大切さをまずはお話されました。

また、その中でコミュニケーションエラーによるトラブルを防ぎ、分かり合うために「やさしい日本語」が大切だと話され、みんなで「やさしい日本語」を考える時間も用意していただきました。



やさしい日本語のコツ はさみの法則



は っきり 言う
さ いごまで 言う
み じかく 言う

翻訳機やアプリはあっても、難しい会話は翻訳できなかったり、誤訳したりする可能性があります。日常生活からやさしい日本語に取り組んでみましょう!